

令和元年度 第1回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 令和元年7月23日（火）
10:00 ～ 12:10
場 所 志摩市役所6階 602・603 会議室

出席者（順不同・敬称略）

- (1) 審議会委員(14名)
牧谷拓、大西晶、内田清隆、岩崎恭彦（会長）、松井佳子、畑野悦哉、清水久史、
尾間正美、米澤尚之、東川清加、橋本征郎、井上摩紀、長濱彰則、濱口朝洋
- (2) 事務局(4名) 東桂一、北山亥之生、大寄伸人、米奥宏規

傍聴者…8名

事項書1. あいさつ

【岩崎会長】

本年度は第1期の総合戦略の最終年度ということで、第2期に向けてのステップとして大事な時期である。審議時間をしっかりと確保していきたいと思うので、円滑な議事進行に協力を願いたい。

【事務局】

傍聴席を設置し公開していることや撮影や録音等の了承について確認。

委員18名中13（1名が途中から出席）の出席により会議が成立していることを報告。（志摩市地方創生審議会条例第5条第3項）

志摩市地方創生審議会条例第5条第2項の規定に基づき、議事進行を岩崎恭彦会長に依頼。

事項書2. 議事（1）平成30年度実績報告について

【岩崎会長】

事務局より資料確認を求める。

[事務局説明]

【岩崎会長】

事項の1番目、平成30年度実績報告について事務局からの説明を求める。

《政策分野1「ひとの育成」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

説明が前後するが、本日の議題は主に2点あり、平成30年度の実績報告と、まち・ひと・しごと創生基本方針2019についてである。実績報告についても志摩市の地方創生が順調に進んできている

かどうかをチェックいただく重要な議題であるが、より重要となってくるのが第2期の総合戦略策定に向けてどのような視点に立って検討を進めていくかについて、出来れば一人ずつ意見をいただくことに重点を置いて進めていきたい。

実績報告の議題については事務局からの説明についての疑問を解消してくような質疑にとどめていただければと考えている。

この分野について、質問等はないか。

[意見・質問なし]

《政策分野2「ひとの確保」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

この分野について、質問等はないか。

【米澤委員】

「2-8 若者世代の移住促進事業」について、一定の成果が出ていると思うが、対象者は補助が終わった後も引き続き定住されているのか。

【事務局】

1年間家賃を2分の1補助しているが、申請時に転勤等の移住ではないということを確認させてもらっている。申請は半年に1度必要であり、申請時の他、定住に関しての相談等の対応もしている。1年間対応する中では、今のところはいないと思う。それ以降となると、住民票の確認が必要となり、プライベートなことになるので把握していない。また、一次産業の方は独り立ちできるまでの修行が必要とのことで3年間としているが、その対象者についてはまだ継続している。

【長濱委員】

「2-5 IJU（移住）ターン促進のための奨学金返済補助事業」について、29年度から人数が増えてきているが、30年度の予算額が大幅に減っているのはどうか。

【事務局】

29年度は、2,400万円を基金積立金として支出しているので大幅な差が生じた。基金積み立てにあたっては、ふるさと応援基金を充当している。

【長濱委員】

29年度の実質の額は2,400万円との差額となるのか。

【事務局】

委員の指摘のとおりである。

【濱口委員】

「2-4 水産業の担い手受け入れ推進事業」について、水産業の関係で水質や環境状況が年々悪くなっている。こうした現状の中、受け入れの体制を検討していく予定なのか。

【事務局】

水産業の場合は、漁業権という問題があり、漁業権を取得しないと漁業ができないという現状がある。最初は見習いで漁業に取り組んでいただくこととなる。環境悪化の現状もあるが、後継者不足はどの地域も共通の課題となっているので、特に受け入れ態勢が整っているところへ人材を充てている。

【岩崎会長】

直接担当課が回答した方がより適切な質問だったと思う。是非、担当課に繋いでいただければと思う。

【長濱委員】

「2-3 移住しやすい志摩づくり事業」について、早く動いてほしい事業であったが、ようやく動き始めた気がする。移住支援者に 18 名登録があるということであるが、具体的に内容を聞きたい。

【事務局】

28 年度から、移住者のワークショップを行い、経験を基にどういった体制が良いのか検討してきた。その検討結果の 1 つとして、ガイドブックを作成し、もう 1 つとして、支援体制を昨年 11 月に構築した。支援体制の内容については、ワークショップでかなりの議論をし、最終的には実績内容のとおりメールによる相談体制をとることとなった。時間や曜日を気にすることなく、匿名でも問い合わせができ、直接のやりとりではなく、市役所を介してのやりとりとなる仕組みであるのでプライバシーを配慮し、移住者からのアドバイスが聞けるといったものとなっている。

【長濱委員】

非常にすばらしい取り組みかと思うが、実際に活用している人数は出てきているか。

【事務局】

30 年度は、11 月から 3 月までとなり 2 件となる。今年度は、3・4 件出てきているが、内容によっては移住支援者に聞くまでもないものもある。想定している質問、例えば「農業を始めるときにどのようなことに苦労したか」などとなるが、まだこういったところにまで至っていない。周知不足もあると思い、ガイドブックへのチラシの挟み込みをして配布をしている状況である。

【岩崎会長】

次の政策分野に移りたいがよろしいか。

《政策分野 3 「まちの発見」について》

[事務局説明]

【事務局】

先ほどの説明の訂正をいたしたい。「2-8 若者世代の移住促進事業」のところで、半年で申請を取りやめた方が数人いた。全ての方が1年間申請していただいたわけではなく、半年で申請を取りやめられたという方がいた。

【長濱委員】

「3-3 地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業」について、雛形といった意味かと思うが、事業はそれぞれ良い事業であると思うが、プラットフォームとしてつながっていないというところを感じる。例えば6次産業化の講演をした後にその人たちが集まってそこでグループを作っていくとかが必要であると思う。

【事務局】

2つ目のKPIとなるが、課題がある部分であると思う。民間事業者等の協働の取り組みのきっかけづくりとしての可能性はあるかもしれないが、KPIが求める協働の創出となると可能性が低いと考えており、検討が必要と考えている。様々な業種・業態の方に集まっていけるように、商工会、観光協会等に声掛けをし、きっかけづくりを試みてはいるが、そこから前へ進むまでに至っていない。

【東川委員】

3-3について、開催日と時間設定をどのように決めているのか。私も取材で伺うことがあるが、せっかく良い講演会であるのに、平日の昼間であったりするので残念に思うことがある。講師の都合もあるかと思うが、ターゲットにあわせた時間設定や、冒頭や最後に趣旨説明を入れるなど、参加者に地方創生の取り組みをもっとわかりやすく呼びかける必要もあるのではないかと感じている。やったという実績だけではなく、やる意味を持たせる工夫も必要であると思う。

【事務局】

委員指摘の曜日や時間設定についてであるが、商工会や観光協会等にヒアリングをし、講演内容だけでなく曜日や時間帯についても伺った。あとは講師の都合もあるが、早めの調整を心掛けていく必要があると思う。趣旨説明という良い提案をいただいたので、参考としていきたい。

【大西委員】

「3-1 志摩市のホームページの魅力向上事業」について、ホームページは市民の手続き上の利便性を高めるのに非常に有効なツールであり、話題性でアクセスを高めて志摩市の事を知ってもらうのにも有効だと思う。の中で今、スマホ等も発達してきて、この3年間の比較でいくともっといろんなことを劇的に伸ばせる余地があると数値を見て思った。ホームページを触る人は、市役所の中の担当者なのか、こういった仕組みで情報発信に至っているのか。また、スムーズに情報が掲載されているのか。

【事務局】

総体的なホームページの管理については、秘書課の広報担当が行っている。各課が掲載したい情報を各担当でシステムへ入力をし、決裁と秘書課によるチェックを経て、外部からホームページが

閲覧できるようになっている。

【岩崎会長】

重要な指摘であると思うので、有益な情報をすばやく掲載出来るような形で検討願う。

【牧谷委員】

「3-5 志摩市の食材を生かした食育推進事業」について、子供たちの給食に志摩市の食材を使用するという事で、いろいろ候補はあったかと思うが、候補に挙がったが使えなかった食材があれば、その理由も含めて説明願う。

【事務局】

ヒアリングの中で、特定の食材を出していきたいと思っても、ロットが確保できず断念したケースもあると聞いている。また、昨年度は確保できたが今年度はできなかったりと、農産物もそうではあるが、水産物は漁獲量の増減があり悩ましいところであると聞いている。

【長濱委員】

同じく 3-5 について、30 年度で約 170 万円の予算（決算）となっており、今までなかった予算でもある。1 次産業者を盛り上げるためには、非常に有効であると思う。前回等にも提案したが、ロット数が足りないのであれば、候補になるものを発信して、生産者側とのやりとりの中で活用できるような状況を作っていけば良いと思う。今回の予算についてはどうか。

【事務局】

予算についてであるが、この事業は 30 年度から開始の事業で、この様な食育関連で食材を使用した事業は、以前から給食センターで行ってきたと思う。総合戦略に位置付けしたのが 30 年度となっている。1 次産業者を盛り上げるという部分で、牧谷委員にも農業者の代表として来ていただいているが、農業者の方とのやり取りの中でどこまで確保できるかということもあるので、意見については担当課に伝えたいと思う。

【長濱委員】

この予算はどのような使い方をしたのか。

【事務局】

主に給食材料の購入費と聞いている。

【長濱委員】

学校給食の中にある予算ではなく、別途この事業のために出したのか。

【事務局】

給食センターの予算の枠の 1 つであるが、それがどの部分かは資料を持ち合わせていないため、後日確認をさせていただき長濱委員に伝えさせていただきたい。

【岩崎会長】

次の政策分野に移りたいがよろしいか。

《政策分野4「しごとの強化」について》

〔事務局説明〕

【長濱委員】

「4-1 ふるさと応援寄附推進事業」について、実質的なふるさと納税額がいくらだったのか、詳しく教えてほしい。

【事務局】

30年度のふるさと応援寄附額は、全体で1億73万2,532円となっている。

【長濱委員】

前年度、前々年度の寄附額も詳しく説明願う。

【事務局】

29年度は3億6,185万8,919円で約3億6千万円、28年度は7億8,672万9,105円で約7億8千万円となっている。

【長濱委員】

非常に減ってきていると思うが、漁協がふるさと納税で送りたい場合、人員が足りないというところで足踏みしてしまうと思う。例えば、サザエの値段が下がってしまっているときに、ふるさと納税で買い支えて、ふるさと納税で送ることで1次産業者が金額の下がった時の買い支えになるのではないかと思う。市職員をそこへ派遣してふるさと納税事務をさせるなどで、寄附が集まると思う。

【事務局】

やはり寄附額がかなり減っているのは、当初の制度が始まった時に、商品券や宿泊券が当時認められていたため、市内にホテル等も多いのでそれで来ていただいた方も多かった。その後いろいろな基準ができて総務省の指導に従い取り下げた中で、このことが大きな原因となり寄附額が減ってきているという現実がある。1次産業は志摩市の産業の1つであるので、以前から特産品に入れているが、人手不足に関しては確認ができていない。漁協等の出荷が増えるという風になるのであれば、職員の派遣までは難しいと思うが、何等かの対応ができるかと思う。季節的なこともあるため漁獲量も確認し、特色を生かしていくことも考えたい。あと、志摩市で生産している真珠が、一時期指導があったため取りやめていることが大きな減少の要因にもなっている。それについてもなんとかならないかということで県と交渉している。

【長濱委員】

四季折々の魚介類を不定期で3回4回送るとか、海を守るところに事務を補填したり、魚介類が安い時に、それをふるさと納税で買い支えて1次産業の人たちの収入を底上げしていく使い方をで

できれば非常に良くなると思うので検討願いたい。

【橋本委員】

関連して、ふるさと応援寄附金が地方創生の大きな財源になっており、返礼品に問題がある中で、各市町村が知恵を出して努力をしているようであるが、先程の説明にもあったように、1番大きな原因は、真珠製品を取り下げたことではないかと思う。国の方針もあると思うが、高額なものでなければ、志摩市の真珠は1次産業となるので、県や国に対し再度真珠製品を取り上げてもらえるように努力をしているとのことであるが、議会と執行部が地域の熱意を国に訴えていくことが大事だと思う。真珠製品や観光産業といった1次産業と観光産業が衰退してしまえば一番大きな打撃を受けるわけであるので、そういう部分を地方創生でやっていく上では絶対不可欠なものであるので、次の施策の中に取り入れてほしい。

【岩崎会長】

重要な意見として承りたいと思う。

【内田委員】

「4-7 御食国食文化展開事業」について、この事業の目的が地域資源の掘り起こしや学びの機会を創出し次世代に継承するとあるが、実際に取り組んでいるのが、外国人向け食文化研修ということで、目的からすると後継者となり得るような方がターゲットなのかなと思ったが、実際のところ違っていた。外国人に理解していただけることは重要だと思うが、事業の取り組みとして外国人向けに行なわれた理由がわかれば教えてほしい。

【事務局】

スタディツアーという外国人向け、インバウンド対応での取り組みを行ったということである。情報発信については、国内向けのみならず海外へも発信し、地名度を上げることで将来的な生産者の収入増を狙ったと聞いている。30年度からスタートの事業であり、1年間実施する中で課題も見えてきている。

【岩崎会長】

時間も押してきたので、意見については、あと1つ2ついただきたい。

【長濱委員】

4-7の事業であるが、志摩は歴史があり、御食国というのは、倭姫命、豊鍬入姫命や天照大御神にまつわる話が多くある。2千年前の倭姫命からの歴史が続いているところであり、本当にすばらしい歴史がある。そこを掘り起こしていくことにより外国人を含めた方々に来ていただけたと思う。

【岩崎会長】

時間がかなり押してきているので、政策分野の5と6を続けて、顕著な変化があったところに重点を押さえて端的に説明願う。

《政策分野5「しごとの創出」及び6「まちの形成」について》

[事務局説明]

【橋本委員】

「6-6 これからの志摩市の地域交通検討事業」について、高齢化の中で今問題となっている高齢者の免許返納がある。また、離島航路の関係であるが、間崎以外にも渡鹿野島もあるが、最近船代が値上がりし、島民にとって厳しい状況になっている。どんどん島から人が出ていくという状況の中で、渡鹿野島で助成がなされておらず、こうした検討がされているのか。

【事務局】

渡鹿野島の船代が3月に180円から200円になったことは承知している。間崎島では、バスの運賃と比較して船代がオーバーしていた分の助成を行っており、渡鹿野島に関しても3月からバス移動よりも高くなっているということも認識している。今後、国の補助要件には合わないが、平等性を考慮していかなければいけないことは認識しているので、今後検討していくところである。

【橋本委員】

わずか500mくらいで行き来しないといけない離島である渡鹿野の場合、夜遅くなると割り増し料金となっており、島から通勤している人は、船からバスに乗ったりしないといけないと思うが、先程のバスの話があったが、船にも離島のハンデというところで検討してほしい。

【長濱委員】

同じく6-6について、志摩市の重要なところだと思うので、現状と今後の展開について教えてほしい。

【事務局】

現状については、阿児地区において志島循環線があり、三重交通が廃止したので志摩市が運行しているところである。マリンレジャーが運航している英虞湾航路については、現在かなりの赤字が出ているが、それに対して800万円の補助をしたり、磯部地区は交通空白地ということで、ハッスル号という予約運行型のバスがあるが、まだまだこういったものでは賄い切れていない。高齢化も進んでおり、免許の返納もあるので、昨年から各地域の声を聴く懇談会を行い、今年度、交通網形成計画を立てるようにしている。現在、パブリックコメントをしており、この計画が策定されれば、それに基づいて実施していくという状況である。

事項書2. 議事（2）まち・ひと・しごと創生基本方針2019について

【岩崎会長】

議事の不手際で最後は駆け足となってしまう、実績報告について確認いただいたということにさせていたきたいと思う。続いての議題については、資料2の説明に関して必要最小限とし、資料3を中心に説明を願う。

[事務局説明]

【岩崎会長】

第2期の総合戦略に向けて、市として考える今後の方向性について説明があった。これについて、委員の皆さんから一人ずつ意見を伺いたい。進行の不手際もあり時間が押しているので、一人2～3分にまとめていただきたい。言い足りない部分は直接事務局に伝えていただき、それを今後の検討材料にしたいと思うので了承願いたい。いただきたい意見として、市の総合戦略で欠けていた視点であり、国の法律に基づいて策定する志摩市の計画であるので、ある程度国の視点に沿うような形でまとめていくということが求められる。第2期の新たな視点として国が提示してくるような1から6の視点に沿うようなかたちで志摩市の独自性を発揮するというのが重要だと思う。こうした点についてのアイデアなども聞かせていただけるとありがたいと思う。身構えずに普段考えていることを聞かせいただければと思う。牧谷委員から順によろしいか。

【牧谷委員】

住んでいる地域によってごみ集積所の形態が違ってくると思う。今住んでいる地区は、時間帯によっては混んでいたりする。朝8時までに出す決まりがあるが、小学生の通学時間帯と重なってしまい、道も狭いため怖い思いをすることもある。また、ネットがしてあるだけなので、カラスが入り込んでいたりして異臭もしてくる。ごみ集積所の要望というわけではないが、移住を考えている人や住んでいる人にとっては、設置場所等も考えていかないといけないのではないかなと思う。

【岩崎会長】

事務局からの回答というわけではなく、意見については次期戦略に向けた視点で検討させていただきたい。

【大西委員】

移住事業に関しては会社の従業員が制度を使ったり、宿泊施設であるので食材としてのアカモク等や、人材の面であったりと、企業として非常に有効な面があったと思う。ただ、市民として関わる時には、若干距離があると感じている。実際こういった取り組みを広報等で情報を取り参画していくかという部分ではなかなか難しいと思う。市民と地方創生をどう結びつけるかが課題であると感じている。こういう活動をやっていて自分ができるというところを見つけてどんどん参画できたら理想だが、そこに至る道筋が大きな課題であると思う。とはいえ、いろいろな取り組みをしているのはしっかり意識を高めて企業としても個人としても協力できればと感じている。

【内田委員】

第1期の戦略が資料の今年度までの実績で成果を出しているが、全体的にどれだけ進んだのかわかりづらい。それぞれの分野での評価をした上で第2期の戦略を考えていくのも必要ではないかなと思う。あと第2期の戦略について、特に人材や地域経営の視点ということでこれからMaaSに取り組んで移動の確保をするのは非常に重要なことだと思う。横文字やカタカナの言葉は地域の方にとってわかりづらいのかと思うので、理解しやすいように説明をして施策や戦略に入れたらどうかと思う。

【松井委員】

第1期の市の戦略で不足していた視点の中に教育分野を入れていただきありがたいと思う。1-1 中学

生と高校生の地方創生参画推進事業があるが、小学校においても教科を超えた学習として、地域学習に時間を割いて取り組んでいる。中学生や高校生だけではなく小学生における地域学習という視点も持ってほしいと思う。来年度から小学校で英語が教科化されるので、教職員たちは授業に取り組んだりと努力している。こうした中、県もグローバルな視点といって地域も大切にして世界にも目を向けるということに力入れている。志摩市においてもグローバルな視点での具体的な戦略をたてていただくとありがたく思う。また Society5.0 においては、プログラミングの学習も入ってきており、教職員も模索している状況である。大人だけではなく、子どもたちの教育においてのこうした視点を入れてほしい。

【畑野委員】

新たな視点が示されている中で、資料3の市で動き出している施策として、SDGs 未来都市計画を策定し計画をもっている。あいさつには SDGs という言葉が並ぶが、それ以降のページの中に言葉がどこにも出てこない。当然第2期でやることだとは思いますが、未来都市計画は出来ているので、市職員の方でこういう資料にも反映していいはずである。来年度を待たずともこの辺の意識と、予算特集号についても、今ここで議論されている総合戦略のどれかというのがあるはずであり、それを示し、なおかつそこに17のSDGsのゴールがあるわけなので、それがどれのゴールかをここに示すことくらい簡単にできると思う。総合戦略と未来都市計画が別物ではなく、同じ市で作っている計画なので今年度中にある程度まとめて、次年度にすぐ動けるようにしていく必要があるとすごく感じた。最後に、Society5.0の関係で支店長に対しても本店の方からしっかり勉強しなさいと言われていた。一番わかりやすいのは政府広報の短い動画がある。それを見ていただくと、今後の志摩市をイメージできるようないい動画であるので是非皆さんも見てください。先程の委員が言われた難しい用語が並ぶのですが、この動画を見ると腹落ちするので、委員の我々も勉強して今度の市の政策に活かせたらと思う。

【尾間委員】

SDGs という市で動き出している施策であるが、仕事柄日経新聞を読んでいると日々出てくる言葉である。どちらかというと教養のレベルなのかというイメージしかなかったが、実際に市民にこれが市で動き出している施策として突きつけられると、これは大変であるということとなる。以前 SDGs の勉強会が商工会であったときに、高校生に SDGs について学ばせているという先生がいて、この中にたくさん書いてあるが、すべての中に集約されており、地域や国によって違うが、全部実現されていくのであれば、持続可能な社会ができていくのかというのをその時に思った。ただ、もっとお祭り騒ぎでも参加していくというイメージがないと、教養として留まってしまう。みんなが危機感を持ってお祭り騒ぎで突き進んでいくというのが大事であると思う。総合戦略についても歯がゆさがあり、KPI も大事ではあるがもっと総合的な指標があり、すべてが繋がっていると思う。

【米澤委員】

私の関わる分野では、ひとの育成やひとの確保であり、それなりに結果は出ていると思うが、もっとできることはたくさんあるのではないかなと思う。若者の流出を防止するという、高校生が地元の企業に就職するような取り組みを引き続きしてほしいと思う。移住促進の事業も動き出して良かったと思う。自分の経験で言うと、お金を出す制度を充実するのも大事だが、一番のポイントは移住を検討している人がきちんと相談できるという、相談に乗れる体制ということがポイントだと思う。

うので、メールの事業がもっと拡充していくと良いと思うし、直に相談もできるようになると良いと思う。第2期戦略に向けた新たな視点では、誰もが活躍できるというところで女性や高齢者や障がい者がそうであるが、女性であれば男女共同参画だと思う。障がい者の活躍について、他市の会議で検討されているが、企業への働きかけもし、こういった部分も検討していただければと思う。

【東川委員】

委員として思うことが3つあり、1つ目は、地方創生の大事な取り組みの一つに事業が自走出来たり、市民が本気になり取り組むことへのお手伝いの事業でもあるかと思う。実績報告の中には、継続してやっていくために今後どうするかが必要ではないかと思う。大王町のバス停アートの実績は残るが、それを維持し自走するために何をやるかの方向性を示していかないと、やったというKPIの数字だけでは実質的に地方創生に繋がっていないので、今後継続していけるものか、どういう風に継続していくかについて実績報告の中に含めてほしい。2つ目として、初回から思っていたが今後この志摩市を担っていく子供たちは小さい子供たちになると思うので、志摩に生まれて良かったと思う大人たちの思いを引き継いでいく、次世代の育成がすごく大事になってくると思う。地域の人たちと関わる地域学習の授業をしっかり盛り込んでいってほしい。総合戦略の事業だけが地方創生ではないと思うので、いろんな事業を市としてがんばって継続していくことは地方創生の取り組みとして挙げられるが、ここに参加している委員もそうであり、市民一人ひとりが地方創生への理解をもっとしていかないと、市だけがやっている、国に決められたことをやってるだけだと、地方創生や人口減少の歯止めにはつながらない。ここに関わっていない市民のレベルに置き換えて考えると、地方創生で何をやっているのかわかっている人はどれだけの人たちなのかと思う。地元がいいなと思い、地域の良さを実感できることがもっとたくさんあるべきと思う。例えば、横山展望台がきれいになって人でにぎわっていると思っていても、地元の人たちがコンサートや、自然環境の中でのヨガなどして地元の人がそこで関わるのが地域の良さを実感できるということも地方創生の一つだと思う。そういったことができない理由があるのであればそれを出来るような後押しを国や市がやるべきだと思う。事業にはない部分で様々な分野の人たちがもっと関わっていくべきなのではないかと思う。最後は、それぞれの事業の情報発信が肝になってくると思う。それぞれの事業においてしっかりとこれは地方創生の事業だということをもっと出していく必要があるのではないかと思う。今後、新しい総合戦略や事業を継続していく中で課題もあるかと思うが、委員として意見を言うだけではなく、自分も発信する立場だということを感じている。今後も志摩市の地方創生について、自分からも発信できるように、ケーブルテレビという立場も活かしながら、もう少しやっていきたいと思う。

【橋本委員】

1期目で種をまいて2期目で花を咲かせ実が成る戦略かと思うが、特に1次産業の農業や漁業の後継者の育成の中で、私の地区も漁業者の育成で2人受け入れている。3年間は市が面倒を見てくれるが、それ以降になると収入がゼロになるので、仕事は3年間で覚えるが収入もあげられるようにする。漁業の場合は漁業権を取得しようとするとな資が必要であり、独立のためには資金も必要となる。移住者にとって保証人がいないということで資金調達ができない。仕事を覚えても事業化できなかったら意味がないわけであり、第2期では制度の中でお金が借りられるような状況をつくる必要がある。海的环境も後継者がいても汚れていく、その中で事業が成り立たない部分もあるので、人の問題と環境の問題を連携して考えていくべきだと思う。公共用地でかなり良い土地が活

用されないで雑草が生えている状況である。前から言っているが思い切った施策で、無償で開放するなど地域に企業が定着できるようなアイデアで公共用地の活用を積極的に市の施策として続けてほしい。

【長濱委員】

獣害が非常に増えているので、市としてもかなり取り組みはしていると思うが、駆除してくれる人の育成をしてほしい。和具地区に住んでいるが、魚介類のもとであるアラメがほとんど枯れてしまい鮑も小さく商品価値が低い。里海里山ということで、海の森としてもう一度アラメ等を形成していくような施策をしてほしい。2期の戦略として非常に有望な状況が生まれてきているので、少子化対策や教育分野においてきらりと光る地方大学創生というのが出てきている。志摩市においても各大学と連携するだけではなく、独自に伊勢志摩大学をつくる。ここはサミットの会場にもなっているので世界各国の子供達ともまだ連携が続いているので、SDGsを含めた未来を担っていく人材育成の場として非常に素晴らしいと思う。伊勢志摩大学の創生を100年先の人々にまで影響するので、検討し実行してほしい。Society5.0ということで、IT企業と連携し、キャッシュレス化によるインバウンドの受け入れや、伊勢に來ている人を志摩に呼び込んでくる形としての地域通貨について市とも提携していけたらと思う。倭姫命や豊鍬入姫命が通われてきた道とか、伊勢神宮の125社めぐりにも伊雑宮も入っているので、VRによる観光を進め、例えばその場所で眼鏡をしたら2千年前の情景が現れたりと人の新たな流れを作っていくのもいいかと思う。

【井上委員】

今年も小学校の終業式が7月19日の金曜日だったが、家に帰っても母親が仕事でおらず、昼ごはんとしてパンが1個置いてあるだけの家庭の話がある。出来れば終業式の日も給食をしてほしい。年に3回あり、学校の先生は大変だと思うが、カロリー計算された給食を出してもらえたら母親が助かると思う。これを発言するところがないので言わせてもらった。私の住んでいる浜島は、高校への通学にスクールバスを利用しているが、バスの定期代が1年間1括で支払うと15万円程度かかる。それを3月末に一括で支払わないといけないので、母親が1か月働きに行っても15万円の収入はないと思う。他の地域では月額3千円の助成金があると聞く。高校の子供たちのためを思うのだったら、浜島から水産高校や志摩高校へ通うのでも伊勢の高校へ通うのでも3月末に15万円を三重交通に払わないといけないので、市からの助成金があれば助かると思う。役所の職員が結婚すると鵜方に引っ越して浜島に住まない。高校への通学が一つのネックになっているのではないだろうか。

【濱口委員】

第1期の戦略については、整理して統廃合していくということであり、内容の取り組みについて今ようやく形になりつつあるのが実感である。第2期の戦略においても、新たな視点の部分で今後地方への人や資金の流れを強化していくとのことで、IT事業とかSNSの活用方法を充実していく必要があるのではないかと思う。新しい時代の流れについて、SDGsについての話があるが、資源管理を進めていく上での取り組みについてもっと明確化をし、議会の中でも議論をするなど、もっと議論する場があればいいかと思う。誰もが活躍できる地域社会を作るところで、先日アメフトのクラブチームが志摩B&G海洋センターに強化合宿へ來ていた。雨も降っていてグラウンドの状況がすごく悪く、どろんこになりながら合宿をしていたという現状があり、市内のスポーツ施設の充実や管理の取り組みも考えてほしい。

【岩崎会長】

意見交換する場、議論する場のはずであるが、説明のところで時間がかかってしまい、皆様からの意見やアイデアをいただく時間が短くなってしまっていることを、申し訳なく思っている。この点について、私と事務局の宿題と思っているので、実りある議論の場に、審議会を育てていけるよう皆様からの協力をいただきながら検討していきたい。

【事務局】

それではどうもありがとうございました。私どもの不手際で遅くなり申し訳なく思っている。もう少し議論があったかと思う。いろいろな意見もいただいたので報告させていただきたい。本日はありがとうございました。

以上